

発信！地域自慢① 災害に強い地域づくりは、地域の絆づくりから（多賀地区連合町内会）

☎市民連携推進課 ☎ 43・9182 FAX 47・1485

「発信！地域自慢」では、連合町内会長に、地域の特色ある活動や伝統行事などについて紹介していただきます。

第1回は、東日本大震災で住宅被害が最も多かった、多賀地区の音喜多会長にお話を伺いました。



多賀地区連合町内会
おときたいしすけ
音喜多市助 会長

○震災直後の活動

津波によって大きな被害を受けたことから、地域の災害対策本部を立ち上げ、多賀地区応援隊として近隣の地域内からボランティアを募りました。初めてのことで、戸惑うことばかりでしたが、地域の住民同士が、片付けなどの復旧のために助け合いました。

○震災を経験して感じたこと

今回の経験で、一人では何もできないこと、町内会を中心に地域で助け合う、共助の重要性が改めてわかりました。そこで、地域の関係者で「災害に強い地域づくり会議」を開催し、「災害に強い地域づくり計画」を策定しました。その計画の中で、目標の一つに防災組織の設立を掲げ、地域が一致協力して自主防災組織を設立しました。

○自主防災組織設立後の活動

最初の活動として、9月16日に消防本部と消防団と一緒に防災訓練を行いました。多賀地区はとにかく津波から逃げるのが大事なので、住民の避難訓練のほか、消防団の皆さんによる救護など、具体的な訓練を行いました。

○今後の取り組み

車椅子の方など、緊急時に自力で動けない高齢者が増えているので、昔のように隣近所でお互い声を掛け合って助け合えるような地域を目指して、「高齢者地域見守りネットワーク」を作りました。普段から声を掛け合える関係を作っておくことで、いざという時にも助け合うことができるのではないかと思います。

ただ、若い人たちには、普段の町内の集まりなどになかなか出てもらえません。防災訓練と地域の運動会には、子どもと一緒に親御さんも参加してくれるので、それ以外にも親子で参加しやすい機会を作っていければと思います。

災害に強い地域づくりには、住民同士が助け合える関係をつくるのが大切です。そのために、皆が日頃から町内会の活動に参加・協力し、地域の絆を育んでいくことが必要だと感じています。



避難訓練のようす